

進路を支えてくれた人たちに 医療の即戦力となって恩返ししたい

今、僕は生まれ育った宮城県を離れ、埼玉県にある大学の診療放射線学科で勉強しています。辛い思いをしている患者さんに、親身に接してあげられる放射線技師になることを思い描きながら、3年後の国家試験合格を目指しています。

消防士の父と、看護師の母の働く姿を見て、小さいころから医療機関で働こうと思っていました。漠然と「放射線技師になりたい」と思っていたころ、震災が起き、放射能の影響についてさまざまな話題が飛び交いました。このとき、「人々の健康に貢献する放射線もあることをみんなに知ってもらいたい、役立ててもらいたい」と感じ、放射線技師になるという想いをさらに強くし、大学進学を決めました。

両親や親戚、そして「夢を応援基金」が僕の進路の支えとなりました。この奨学金で教科書を購入し、国家試験へ向けた学習費用や試験料に充てるために、できるだけ貯金しています。

僕が放射線技師になったら、こうして支援してくれた人たちみんなに恩返しをしたいと思っています。

宮城県
永井宗篤さん
大学1年

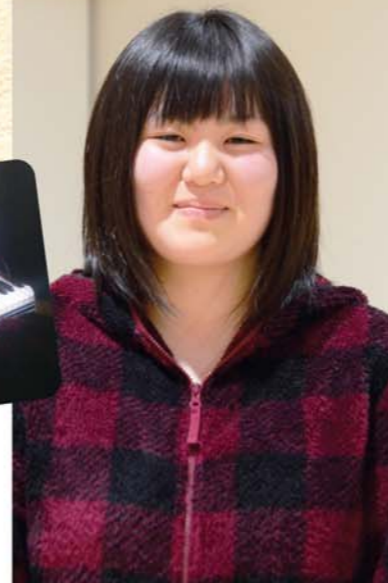


夢はピアノの先生 子供たちに夢を与えたい

お姉ちゃんの影響でピアノを習い始めて、小学3年の時にある先生に出会いました。とても優しく、時々厳しくて、尊敬できる先生。私もそんなふうになりたいと思うようになりました。でも震災後は毎日が精一杯で、夢を諦めかけたこともありました。避難していた小学校の体育館にピアノがあって、ただずっと眺めていたのを覚えています。仮設住宅に移ってデジタルピアノが手に入った時はうれしかったです。音を出して弾くことはできないけど、触れていれば心が落ち着いて、不便な暮らしを一瞬でも忘れられます。



岩手県
小山志乃さん
高校2年生




そして今、また教室に通い始めて、先生のもとで指導を受けています。「夢を応援基金」の奨学金は、ピアノの専門学校へ通うために貯金しています。ピアノは私にとって手放せないもの。それを大切に抱えて、先生のように子供たちに夢を与えられるような人になりたい。それが、応援していただいている皆さんへの恩返しになればいいなと思います。



東北の被災された学生さんたちを
応援しています。
みなさまのあたたかいご支援を
お願いいたします。

全国のローソンで募金を受け付けています。

- 店頭募金の他には
 - ①ローソンホームページより Ponta ポイント
 - ②店頭 Loppi にて Ponta ポイントで受付中です。
- お申込み方法など詳しくはローソンホームページへ。

 **CIVIC FORCE** 公益社団法人Civic Forceが運営しています。

構成：大野 雅人／菊地 正宏／武田 よしえ
協力：Action Japan (<http://actionjapan.jp/>)

1,097のありがとう。



「夢を応援基金」では、東北の被災された学生さんたちが社会に飛び立つまで、奨学金などで応援しています。今年、1,097名のうち48名が社会人になりました。応援してくださるみなさまへ“ありがとう”の気持ちをこめて。今、夢に向かって頑張っている奨学生たちの、元気な姿をレポートします。

行政の保健師になって 地域復興を目指したい

震災による津波の影響で、住む家をなくしたとき、当時高校2年生だった私は、家計を助けるために高校を中退して働こうと考えていました。その頃「夢を応援基金」などの奨学金を知り応募。奨学生として出会った仲間の中には、私と同じように震災で家をなくした人や、もっと大変な境遇をくぐり抜けてきた人がいました。情報交換していくうちに以前から漠然と思い描いていた保健師への夢が、どんどん具体的にってきました。

避難所にいたときは、インターネットを利用して、被災地の情報発信をしてきました。私の

岩手県
福田 順美さん
大学1年



発信に答えてくれる人、被災地を訪ねてくる人との出会いを通して「人ってこんなに優しいんだ」と感じました。一方で避難所という集団生活の中で、自分の心を休める場がない人、不安を抱えている人もいました。私はそういう方たちのところに自分から行って、その人と一緒に歩いて行ける「支え木」になりたいと思います。将来は陸前高田市に戻り、ふるさとの復興に貢献したいと考えています。

「今」を大切に 普通の生活を楽しんでいます

地震の時は、キャプテンだった高校のバスケットボール部の練習中でした。1日ですべてのものがなくなってしまった経験から、今まで当たり前だと思っていた日常生活の大切さに気がつきました。だから19歳の今しかやれないことには、積極的にチャレンジ。体を動かすことが好きなので、専門学校の勉強のほかに、放課後はジムに通ったり、週末は友人たちと一緒にスノーボードをやったりしています。また震災がきっかけで、いろいろな人に支えられて、今の自分がいることを実感しています。

僕は原発事故によって起きた、放射線の問題で騒がれている福島県の役に立ちたい。復興の

ために自分も頑張りたい。放射線に対する正しい知識を学びたい。看護師の仕事を通して心不安を持っている人や、病気で困っている人を助けたいと考えています。そんな僕を母も応援してくれています。そのためにも看護の三要素といわれている「知識・技術・患者さんへの対応」をしっかり身につけようと、看護師になるために頑張っています。

福島県
阿部 聖也さん
専門学校1年



将来、人の役に立てるように 充実した学生生活をおくっています

修学旅行でイギリスに行って日本と異なる文化に興味を持ち、語学や国際関係が学べる大学に入りました。「夢を応援基金」の奨学金でひとり暮らしをしながら通学しています。外国の方とコミュニケーションが取れるように、大学では英語を一生懸命学んでいます。教職課程も取っていて、アルバイトでは小学生にスイミングを教えています。人と触れ合うのが好きなんです。将来も何か人の役に立てるような仕事に就きたい。それが今の夢です。高校時代から続けているアーチェリーの練習にも力を入れています。東北の大会での連覇、インカレでのベスト8入賞、そして今年の東京



宮城県
藤本 朱子さん
大学1年

国体に出場することが目標。勉強にバイトに練習にと、充実した毎日です。震災ですべてを失って何が必要かも分からない状況から、今こうしてたくさんの夢や目標をもつことができるようになったのは、皆様のご支援のおかげです。その気持ちに応えられるよう、大学生活でたくさんの方にチャレンジしています。